

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-3-1 人権施策の推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

人権同和教育課長 恩田 克幸

電話番号

0852-22-5495

事務事業の名称	進路保障推進事業	
目的	(1) 対象	同和地区児童生徒をはじめとする様々な支援を必要とする児童生徒
	(2) 意図	同和地区児童生徒をはじめとする様々な支援を必要とする児童生徒の実態を把握し、児童生徒や保護者の思いや願いをもとに、教育課題に対する個別具体的な取組を進め、進路保障の推進を図る。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和教育専任教員や人権・同和教育指導員による市町やすべての高等学校・特別支援学校の訪問を行う。</li> <li>・進路保障に主として関わる教職員や市町村教育委員会の人権・同和教育担当者を対象とした連絡協議会の開催する。</li> <li>・同和地区児童生徒、保護者、教職員の交流活動や教育相談活動を行う。</li> </ul>	

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	会議開催数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		60.00	60.00	60.00	90.00	
式・定義	進路保障に係る推進会議等開催数	実績値	85.00	87.00	90.00	98.00		回	
		達成率		145.00	150.00	163.40		%	
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	17,187	17,576
うち一般財源 (千円)	11,750	11,979

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	(未選択)
---------------------	-------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・市町および学校の訪問では、担当者同士の密接な連携を通じて進路保障が推進されるよう取り組む必要がある。特に進路保障の理念に基づいた取組は教育活動のあらゆる場面全体を通じて行われるものであるということへの理解が、管理職をはじめとするすべての教職員に定着するよう、学校との連携に加え、教育行政機関との連携を強化する必要がある。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

・市町およびすべての高等学校と特別支援学校への訪問をとおして、同和地区児童生徒をはじめとする様々な支援を必要とする児童生徒の実態把握を進めるとともに、進路保障推進体制の整備を進めることができた。

・市町村教育委員会の人権・同和教育担当者を対象とした連絡協議会を実施するとともに、児童生徒の個別具体的な進路保障を推進するために、4教育事務所単位、9ブロック単位での連絡協議会も開催し、情報や課題の共有化をはかった。

・同和地区を有する市町および関係機関と連携して、4教育事務所管内で12事業を実施した。地域の実態を踏まえて交流会や教育相談活動を行い、児童生徒の自主的態度の育成につながった。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

・教育現場が直面する課題も複雑化多様化している中、家庭の経済状況等の生活上の困難をはじめ児童生徒が安心して学ぶための環境が十分に整えられていない。

### ②困っている状況が発生している「原因」

・各学校に進路保障の理念が十分に浸透していないため、児童生徒の個別具体的な進路保障の取組を組織的に取り組む体制が十分できていない。

### ③原因を解消するための「課題」

・「進路保障の理念に基づいた取組が教育活動のあらゆる場面全体を通じて行われるものである」ということの理解の定着や、学校全体の組織的な取組、関係機関等との連携を進めるために、さらなる取組が必要である。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・人権教育指導資料第2集（平成27年3月発行）を発行し、進路保障を柱とする人権教育の在り方、進め方を各学校及び市町村教育委員会等に示したところである。今後、市町村教育委員会の人権・同和教育担当者や学校の教職員に対して、その活用や内容の理解を通じて進路保障の取組がさらに推進されるよう、協議会等の機会を利用しながら周知を進め、実践につながる支援を行う。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）